グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	10939	▶ 10939	ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、星空舞の作付面積
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	6	▶ 70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	6	▶ 70	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	6	▶ 70	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

(技術の内容・効果)

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被覆肥料による施肥	▶ プラスチックレス肥料による施肥	プラスチック被覆肥料の使用量の低減
環境	元肥一発肥料	▶ 鶏糞を活用した施肥	化学肥料使用量の削減
省力	手作業による葉色診断、肥料の動噴散布	▶ ドローンによる生育診断、ブロードキャスターによる施肥	水稻生育状況把握の簡素化・施肥作業の省力化

(技術の効果の指標・目指すべき水準)

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチックレス肥料の使用料 (100t)	2	▶ 30	現状の使用量は水稻以外の品目も含む。目指すべき水準は、肥料の窒素成分を20%、全量基肥施肥体系導入面積を作付面積の70%として算出(端数切捨て)。
環境	化学肥料の使用量 (Kg)	1,479,834	▶ 1,449,034	県下全域を考慮
省力	施肥作業の時間 (時間/10a)	1.00	▶ 0.03	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農業・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する

(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農業の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・県内の水稻栽培においてプラスチックレス肥料の利用は少ない。そのため、栽培マニュアルを基に指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、実施面積の増加に繋げていく。
- ・ドローンで空撮した水稻生育状況のセンシングデータを活用し、効率良く鶏糞を基肥利用しているはまだ少ない。そのため、栽培マニュアルを基に指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、普及を図っていく。

関係者の役割

関係者名	JA等	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 農業試験場 鳥取県 各農業改良普及所	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導 (普及所等と随時連携)	技術指導 (JA等と随時連携)	事務手続き等	

その他